「特別の教科 道徳」学習指導案

日時 令和元年10月2日(水)第5校時 第6学年2組 40名 授業者 高橋 望

<目指す児童像>

自分の思いや考えをもち、正しい判断を普段の生活に生かせる児童

1 主題名 『友情を深める』(B 友情、信頼)

教材名 「ばかじゃん!」(出典:東京書籍 『新しい道徳 6年』)

2 主題設定の理由(指導観)

(1) ねらいとする価値 (価値観)

互いに信頼し合う真の友情関係の基盤となるのは、相手のことを思い、立場を尊重して、相手を理解しようとする心を互いが持つことである。互いに理解し信頼し合うことができるような真の友情関係は、おだやかな社会生活を営み、心豊かな人生を送るためになくてはならないものであることに気付かせるようにしたい。

(2)児童の実態(児童観)

高学年の児童にとって、友達関係は何よりも重要な関心ごとである。自律的になる反面、偏見や独断等により、仲たがいをしたり、思い違いをしたりすることも少なくない。

本学級の児童は、仲の良い小集団グループが見られるが、グループ同士で一緒に活動したり、ボールや鬼ごっこなどで集まって遊んだりすることができる。特に女子には思いやりのある児童が多いが、互いの思い違いからけんかをしてしまい、関係がギクシャクしてしまった時期も見られた。また、全体的に言葉の乱れも激しく、すぐに「ばか」「死ね」などの言葉を使ってしまう児童も多い。学級では、「相手を思いやること」「相手もしくは全体のことを思って行動すること」の大切さを事あるごとに話している。その結果、忙しくしている人の手助けや給食準備の手伝いなど自主的に人のために動く児童が増えた。しかし、児童の発する言葉に着目すると、前述のとおり、相手を傷つけかねないことを平気で言う場面が未だ多々ある。

今回の授業では、教材の中の登場人物の立場になり、仲の良い友達から気になる言葉を言われたときに、どのように考え、解決に向けて行動をしたその思いを問う。そして、恵理菜の例に学び、前向きに行動しようとする姿勢を身に付けさせたい。また、「親しき中にも礼儀あり」の言葉のように、仲の良い友達同士であっても、相手を思いやる温かい言葉で人間関係を育んでいけるようにしたい。

(3) 教材について(教材観)

主人公の恵理菜は、転入先の学校で仲良くなった友達のきのちゃんから「ばかじゃん!」と言われ

たことがきっかけで、「自分だけが嫌われているのではないか」と悩むようになる。ある日、以前の 学校で仲たがいをしてしまったかおりに思い切って声をかけたところ、実は互いの誤解だったこと が判明する。そのことをきっかけに、次の日、恵理菜はきのちゃんに話しかけ、今回も誤解だったこ とが分かる。友達を信頼し、お互いに理解し合うことが、友情を築くために大切であることを学べる 教材である。また、学校生活の一場面を取り上げているので、自己の行動と結びつけて考えることの できる教材でもある。

主人公である恵理菜のよさは、友達に自分の気持ちを素直に伝えたことだけでなく、過去の失敗を通して自分自身を変えたことにもある。自分の弱さと対峙した恵理菜の心情を感じ取らせることは大変価値がある。また、恵理菜の言葉を受容し、自らの発言を顧み、素直に反省、謝罪したきのちゃんのよさにも目を向けさせたい。

また、教材を通して、友達とは間違いや弱さを認め合ったり、互いに高め合ったりする存在であることにも気付かせたい。

3 高学年ブロック分科会の取組

- (1) 学習指導案の作成において話題になったこと
 - ・議論させる発問について、議論の形式について
 - ・もっと細かな時間配分の明示について
 - ・導入の時間短縮について
 - ・ワークシートに書かせる内容について
- (2) 学習指導案の作成までの取組
 - 9月11日(水) 高学年ブロックにて指導案を検討する。
 - 9月13日(金) 研究推進委員会にて指導案を検討する。
 - 9月26日(木) 高学年ブロックにて指導案を再検討する。

4 研究主題に迫るための手だて

(1)「主体的な学び」に導くために

導入の工夫

・ 初めから物語の概要を伝え、高学年にありがちな友人関係の問題であることを意識させてから本文 を読むことで、物語を把握しやすくするとともに、自分事として考えられるようにする。

資料提示の工夫

- ・ 本文が長く、登場人物の関係も複雑のために、最初は教科書を使わず、内容が入りやすい音声付きスライドで教材文を提示する。
- ・ 相関関係を把握しやすくするために、「恵理菜」「きのちゃん」「かおり」の相関図を掲示する。

(2)「対話的な学び」・「深い学び」に導くために

発問の工夫

児童の発表の内容について、別の児童にその意見に対してどう思うかを問いたり、ワークシートの記

入の様子から、挙手していない児童に発言させたりする意図的な指名を行って、話し合いを深める。

5 本時の展開

(1) ねらい

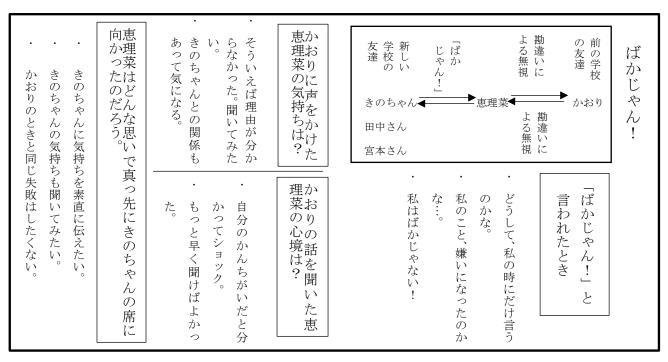
主人公恵理菜の友達とのかかわりの中での気持ちを考えることを通して、友達と互いに信頼し、学 び合って、真の友情を築いていこうとする態度を育てる。

(2) 本時の展開

(2	, ,	平時の展開 ┌────────────────────────────────────	1
過	時	学習活動(○発問◎中心発問・予想される反応)	◇指導上の留意点 ◆評価(方法)
程	間		
導		1 物語の概要を伝える。	◇ 2人の女子の行き違いのストー
入	2		リーであることを伝える。
	分		◇ 高学年に起こりがちな友達間の
			問題であることを意識させる。
展		2 「ばかじゃん!」を読んで話し合う(前半)。	◇ 電子黒板のスライド機能を使
開			う。その間は教科書を開かせ
•			ず、スクリーンに注目させる。
前			◇ あらすじを追いながら登場人物
半	16	○ 自分だけがきのちゃんに「ばかじゃん!」と言	のつながりを相関図で捉えさせ
	分	われていると感じ、恵理菜はどんな気持ちだっ	る。
		たでしょう。	
		どうして、私の時にだけ言うのかな。	
		・ 私のこと、嫌いになったのかな…。	
		・ 私はばかじゃない!	
展		3 「ばかじゃん!」を読んで話し合う(後半)。	
開		○ 知らんぷりをせず、かおりに声をかけた恵理菜	◇ 全体で交流する。
		の気持ちを想像しましょう。また、かおりの話	
後		を聞いて、恵理菜はどう感じたと思いますか。	
半		きのちゃんとのこともあったから気になる。	
		そういえば理由が分からなかった。聞いてみ	
	15	よう。	
	分	・ 自分の思い込みだと分かりショック。	
		もっと早く聞けばよかった。	
		◎ 次の日の朝、恵理菜はどんな思いで真っ先にき	◆ 自分の気持ちを正直に伝えた
		のちゃんの席に向かったと思いますか。恵理菜	り、相手の気持ちを理解した
		の気持ちになって書きましょう。	り、受け入れようとしたりする
		・ きのちゃんに気持ちを素直に伝えたい。	ことが大切なことに気付いた

		 きちんと仲直りしたい。 きのちゃんの気持ちも聞いてみたい。 かおりのときと同じ失敗はしたくない。 きのちゃんなら私の気持ちを分かってくれるはずだ。 	か。 (ワークシート・発言)
終末		4 本時の学習を振り返り、今後の友達関係について考える。	
	12 分	○ 今日の学習で感じたことをもとに、これから友達とどのような関係を築いていきたいか考えましょう。	◇ 今までの友達との経験から述べられる場合は、その経験を踏まえてワークシートに書かせる。

6 板書計画



7 本時のワークシート

٥ ١	1 0		渞
(今までの友達との経験から述べることができる場合は、その経験をふまえて書きましょう。)) 今日の学習で感じたことをもとに、これから友達とどのような関係を築いていきたいですか。	恵理菜の気持ちになって書きましょう。	六年二組 番 名前	道徳ワークシート「ばかじゃん!」 月日()

8 資料分析表

